

ミヤコタナゴ

分類：コイ目 コイ亜目 コイ科  
 学名：*Tanakia tanago*  
 英名：

関東地方の特産種で特に東京近郊の丘陵地帯や平野部を流れる清澄な浅い細流に生息する。分布域が都会地に接していることと分布が極く限られた水域のため、絶滅寸前にあり保護対策に緊急を要する。頭部後方から背鰭の起点にかけて細い暗色帯があり、背鰭の鱗膜には数ヶの長紡錘形の黒い斑紋が見られる。雄の婚姻色は鮮明なる紫、朱赤色、黒色で追星は頭部前方に発現する。産卵期は4月～6月で小形のマツカサガイ（二枚貝、イシガイ科 *Inversidens japonensis*）にダルマ形の卵を産卵する。側線は不完全、口ひげは2本あるも短い、観賞魚として古くから用いられてきた。餌は底棲の小動物。雄は35～55mm、雌の体長は30～45mm。



日本  
 1976. 8. 26



イトヨ

分類：トゲウオ目 トゲウオ科  
 学名：*Gasterosteus aculeatus aculeatus*  
 英名：Threespine stickleback

北半球の亜熱帯の淡水域即ヨーロッパの殆どの河川とアジア、北アメリカの一部の河川、日本では淡水型は青森、福島、栃木、福井の各県。降海型は北緯35°以北。海にも降っていくが海岸からあまりはなれる事はない。清澄で冷たい湧き水の出るところに生息する。背鰭の前方には3本の棘があり体側には側線に沿って鎧状の骨質の鱗板が18～35枚程並び本科の大きな特徴となっている。同属の日本産のハリヨ (*G. aculeatus microcephalus*) は鱗板が2～7枚あるだけで滋賀、岐阜、三重の三県にのみ生息分布する。本属のものは性質が攻撃的で且又動作が敏捷で水生昆虫や小魚を捕食する。繁殖期の雄は喉部が赤、背部が青緑色の美しい婚姻色を呈する。繁殖場所は底が小石か泥の流れのあるところの浅い場所が選ばれ水生植物の葉や根で巣作りをする。体長8cm前後。



日本  
 1976. 9. 16

